第２７期第７回世田谷区社会教育委員の会議　議事録（要旨）

【１】開催日時　平成２９年７月２０日（木）１８時３０分～２０時００分

【２】開催場所　世田谷区役所第２庁舎５階　第４委員会室

【３】出席委員　萩原委員（議長）、宇佐美委員（副議長）、片山委員、神保委員、
箕輪委員、上原委員、坂倉委員、宮田委員、湯澤委員

【４】出席職員　教育委員会事務局
花房生涯学習部長
土屋生涯学習・地域学校連携課長
大井社会教育係長、御園生社会教育担当係長
島田社会教育係主任主事

【５】傍 聴 人　なし

【６】資　　料
会議資料１　　第２７期世田谷区社会教育委員名簿
会議資料２　　第２７期第６回世田谷区社会教育委員の会議議事録（要旨）
会議資料３－１　社会教育的観点から「子どもの貧困」方策の柱立ての素案
会議資料３－２　社会教育的観点から「子どもの貧困」方策の柱立て概要図
会議資料３－３　自助・共助・公助をめぐる構図（現状と理想）
会議資料４　　第２７期社会教育委員の会議活動スケジュール案
参考資料　　平成２９年度版事業概要　教育のあらまし
参考資料　　第４０回せたがやふるさと区民まつりパンフレット

【７】前回議事録（要旨）の承認
異議なく承認された。議事録（要旨）の署名人は、神保委員と箕輪委員。
第７回定例会の議事録（要旨）の署名人は、議長が上原委員と坂倉委員を指名。

【９】議事要旨
１．課題抽出・整理と方策②及び活動報告書素案について
前回までの会議の振り返りと、課題の抽出や整理及び活動報告書素案に向けての意見交換を行った。
（意見交換）
（委員）会議資料３－２「概要図」から見ても、経済的な貧困であれば、行政が中心となってセーフ

ティネットを活用する道筋を見つけてあげればいい。むしろ、今期のテーマである子どもの貧困は、「関係性の貧困」ではないか。子ども達にとっては学校が、対人関係などの社会性、協調性を最初に育む場であるので、そこで詰まってしまうと関係性の貧困に陥っていくとしたら、そうならないよう活動報告書で方向性を出していければいい。

（議長）会議資料３－２「概要図」の記載が、「貧困は見えにくい」で終わっているがむしろ「関係性の貧困は見えにくい」というふうにしたほうが議論の本質が見えてくるか。

（委員）関係性の貧困というのを強く打ち出して、素案のたたき台をつくるべきだと思う。また、「第三の大人のネットワーク」の中に、青少年地区委員会も落とし込めればいいのではないか。知られていない居場所や他にも寺子屋的な学習支援をしているところがあるだろうと改めて感じた。

（議長）そういう市民のボランタリーな活動は、個々に行っていて、その領域では知られているかもしれないが、近接領域に届いているかと言えば意外とそうではなかったりする。こうしたことをそもそもとりまとめるような組織がない。それがこれからの課題の一つになってくると思う。そういう意味では資料３－３に出した「共を育むプラットフォーム」が行政サイドのフォーマルな共と、市民サイドのインフォーマルな共をつないでいく。あるいはインフォーマルな共そのものをつないでいくような、新しい「縁側」みたいなものが必要かと思ってこの概念図にした。世田谷は、そういう意味では宝庫だと思う。

（委員）前回も話をしたが、公立の学校に通っている子ども達は、比較的目が通しやすいけれども、公立ではない学校に通っている子もいるので、地域全体の子どもたちを捉える場合には、どうしていくべきか。

（委員）医学的な予防の考え方で、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチという言葉がある。ポピュレーションというのは、全体的に病気を発生する確率を抑える考え方。ハイリスクアプローチはその中でも病気が発症しやすい人が特定できる場合は、そこに集中して、発症しないようにしようという考え方である。全体的に「共を豊かにする」とか「プラットフォームをつくる」というのは、全体的な環境のつながりをつくって、貧困を起こりにくくするポピュレーションアプローチになると思う。ポピュレーションアプローチを行う原因は、関係性の貧困は見えにくいというのが前提になっている。

ただ一方で、ハイリスクの人は全く特定できないのかというと、そうでもない。子どもの貧困は、問題がない状態から問題がある状態になるときの、リスクが発生するタイミングが割りとパターン化できるのではないか。例えば中学生が高校に進学しようとしたときに、お父さんがいない、お母さんも病気でアルバイトをしなければならず、勉強ができなくなってしまったなど、中学生の間は問題にならなかったことが問題になって、次のステージに行くことができなかったりする。このような、問題がない状態から問題が発症する潜在的な状況のリスクを上手く拾えるような連携ができないかと思う。しかし、本人の同意なく個人情報を扱っていい訳がないので、その辺は慎重に提言しなければいけない。

（議長）確かに、明らかに親が精神疾患になってしまっていて、もうコミュニケーションとか説得も効かないというケースもある。そういった場合には専門機関につなげ、サポートしていただかないとどうしようもない。

（委員）完全に緊急事態となった場合は、専門機関につながらないといけないが、例えば学校の現場で考えると、ここにつなげればこういった状態は大丈夫という情報が予めないと、起こってから探しても間に合わない。そのため、そういった事例や情報が蓄積できるといいと思う。やはり「共」は大事で、

コミュニティの可視化というのはそのとおりだと思う。
（委員）コミュニティに自分から参加する、自分の居場所を自分で生み出していくというのは、大人になって能力が徐々にできてくるのではと思う。子どもにはなかなかできず、子供の居場所として考えられるのは、学校、家庭や児童館など限られていると思う。その限られたコミュニティの中で、自分の居場所がないと感じてしまうことがある。特に貧困の場合、子ども同士で遊ぶことを考えても、高額なゲームが介在しないことには、上手く行動を共にすることができない。そういう遊びの変化もあり、子どもだけで関係性を持てないのはあると思う。そういうときに、地域のコミュニティがどういうふうに子どもとつながれるのかが重要である。地域＝町会、大人＝お役を背負っている人たちしか、見えにくい部分がまだあると思う。他をどうやって拾っていけるのか。そこが第三の大人のネットワークになると思う。
（議長）地域のフォーマルな顔役でなくても、志として持っている方はたくさんいるのではないか。例えば渋谷ファンインというネットワーク活動がある。完全ボランティアで、もともと始めたのは小学校の元校長先生がＰＴＡの元会長と社会教育会館の空き部屋を使って子ども達の居場所を開放し始めたのが発端である。町会の役員なども、町会として動こうとすると動きづらい部分もあるが、この指とまれでやれる活動だから一個人として、「私やる」って言って参加する方もいた。その後様々な場所で広がっていった。そういう役職からは離れたところで、個人の志でつながっていく人もいると思う。
（委員）子育て世代の親同士がつながりにくいという話があるが、保護者の共働きが増え、小学校低学年の保護者会も保護者が半分も来ないという現状で、なかなか低学年の１年生同士がつながりを持てない。中学校を卒業させた親は、ちょっと余裕が出てきたりして、親同士で話をしていても声をかけると学校のことを手伝ってくれたりする。若い人でも上手く声をかけると活用できるのではないか。
（議長）互いがもう少し顔がつながってパイプがもう少し太くなると、市民サイドでボランタリーな活動もしやすくなるのではないか。学校の立場から見ていかがか。
（委員）中学校は、進路を決めるときの面談のときにはじめてその家庭の状況がわかるということが多い。わかってから時間が短いので、そういう場合にどうするのか情報を予め得ておくことが必要である。隠しているわけではないが、中学生くらいになると状況を言わない。個人情報なのか、自分の状況については言わないというのがあるので、なかなか見えにくい。それが逆に教育の仕組みや深まりも疎外しているところもあるかと思う。
（委員）関係機関につなぐと言うけれど、誰がつなぐのか。自身が相談してくれれば答えることはできるが、周りは気づいてもなかなか関係機関につなげない。
（委員）なかなか声をかけづらい状況もあると思うが、５年１０年と子どもの貧困状態が放置されることによって、更にアクセスし辛くなっていく。手を出せないとなると、子どもの可能性を奪ってしまう５年１０年になってしまうリスクは非常に高いので、そのリスクを取ってまで介入をしないという判断が本当に正しいのかどうかもう少し広いレベルで議論が必要だと思う。
（委員）過去の事例だが、精神疾患を持っているお母さんがいて、問題になっていたところ、このまま放置してはいけない、学校とＰＴＡと地域で何ができるかという認識が、周りに連鎖した。その方を孤立させないためのコミュニティにお子さんとお母さんが所属できるように誘いをかけ、支える体制をつくった。そういうつながりができると、子どもがやりたいことができて、お母さんもさせたいことができる。解決したとは言えないが、つながりをつくるということでは機能したと思う。
（委員）構造図で「縁側」とあるが、若い人たちの受け止め方だと、「縁側」がわからない。マンショ

ンの生活だと縁側なんて知らない。注釈でカバーできればいい。
いずれにしても、人は生きていくっていう未来展望型の活動報告書にしたい。
（議長）すぐにこうすればこうなりますとはいえないけれど、中長期的にこういうことは必要だということを再確認することなのかもしれない。あるいはいろんなとこに散らばっていた課題や問題をつなげて全体像を示すことはできるのではないか。いただいたご意見をベースに次回にむけて練り上げていきたい。

２．その他
事務局より情報提供及び案内。
・平成２９年度版事業概要　教育のあらまし
・第４０回せたがやふるさと区民まつり
・第２０回アドベンチャーin 多摩川いかだ下り大会
・わくわくサマープラン２０１７

【１０】次回の日程について
第８回定例会は平成２９年１０月頃に開催予定。事務局で日程調整し、改めて連絡する。

－　以上　－